

訪問歯科診療 必要性高まる

施設や自宅で暮らす高齢者への訪問歯科診療の必要性が高まっている。超高齢社会で要介護者は増加の一途をたどるが、口腔内の状態が悪化しやすいにもかかわらず、認知症や寝たきり状態など通院が難しい人も少なくないからだ。

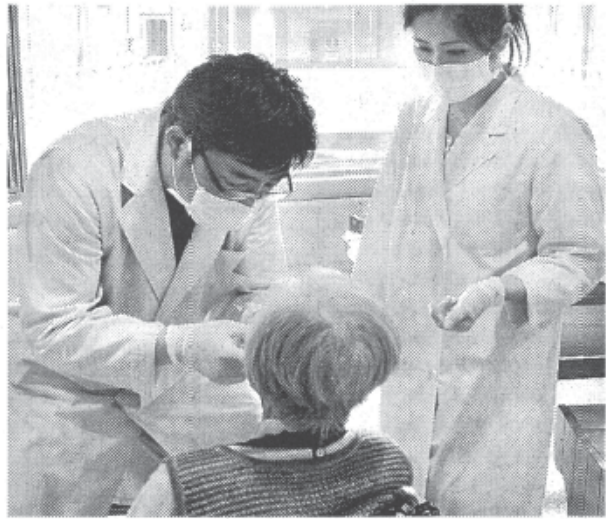
(鎌田倫子)

介護現場で口腔ケア、入れ歯の調整

「これは痛かったね。診。担当の歯科医は「炎症がもっと削りますよ」。根っこだけが残った歯が口の内側に当たって炎症を起こしている。高齢の女性患者は、車いすに座ったままの状態でも歯科医から処置を受けた。西宮市名塩さくら台の特別養護老人ホーム「名塩さくら苑」。毎週水曜午後、2階廊下の脇に即席の診察スペースができ、三田市南が丘、大槻歯科医院の歯科医師2人と歯科衛生士3人が往

「これは痛かったね。診。担当の歯科医は「炎症があっても訴えない高齢者も多い。きつり歯を観察してサインを見逃さないようにしないといけない」と話す。

施設スタッフからは、歯科衛生士から入れ歯の手入れ、口の中や舌の清掃など日々のケアの指導も積極的に受けている。施設支援課長の中村恵美さんは「7年ほど前に胃ろうを造設する入所者が急に増えたのがきっかけ。最期まで口から



介護施設での訪問歯科診療。即席の診察スペースを設け、歯科医師らが入所者の口の中をチェックする。西宮市名塩さくら台2

感染症、誤嚥性肺炎の予防にも

食べられるようにするための方法を模索した結果、口腔ケアを重視するようになったと明かす。以来、誤嚥性肺炎で病院に入院するケースが減ったという。

免疫力が低下

高齢者の訪問歯科診療の主な内容は、入れ歯作りと調整に加え、歯や口の中、入れ歯の清掃など口腔ケアやその指導だ。入れ歯は一度作っても瘦せると合わなくなるため、新調や調整が必要になることも多い。また、加齢に伴い、唾液の分泌が減り、免疫力が低下するなどして口の中は汚れやすくなる。

口腔ケアは口の中の感染症や誤嚥性肺炎の予防にも有効。誤嚥性肺炎は口の中の細菌による感染が原因なので、胃に穴を開けた胃ろうで栄養を摂取している人にも日常的なケアが必要とされる。介護関係者の間では、こうした歯科診療や口腔ケアの重要性が認識され、



最近では介護施設への訪問歯科診療は珍しくなくなり、歯科診療所を併設する施設もある。

県が「連携室」

厚生労働省が2012年度に無作為抽出した全国の歯科診療所千カ所を対象に調べた結果、施設在宅を含め訪問歯科診療に取り組んでいるのは27.7%だった。

在宅介護を推し進める厚労省は10年度から、都道府県への補助を通じ、医療・福祉関係者の連携窓口や希望者からの相談窓口の設置、歯科医師への医療機器貸し出しなどに取り組む「在宅歯科医療連携室」を各地に整備。兵庫県も13年度に在宅歯科診療の実態を調べ、県歯科医師会に委託して同連携室を設ける予定だ。